

(国立公文書館による仮訳)

オユンチメグ・チュロン (Oyunchimeg Chuluun)
モンゴル公文書管理庁研修調査部長

モンゴルにおけるアーカイブズの新時代：課題と機会

私はモンゴル国公文書管理庁研修・研究所所長のオユンチメグ・チュロンである。

イ・サンミン事務局長、鎌田薫氏（国立公文書館館長）、ジョン・シェリダン氏（イギリス国立公文書館デジタル部長）、ジョセフィーヌ・シーキス氏（オーストラリア国立公文書館コレクション管理担当副館長）、2024 年 EASTICA セミナーの参加者の皆様に心から感謝申し上げます。

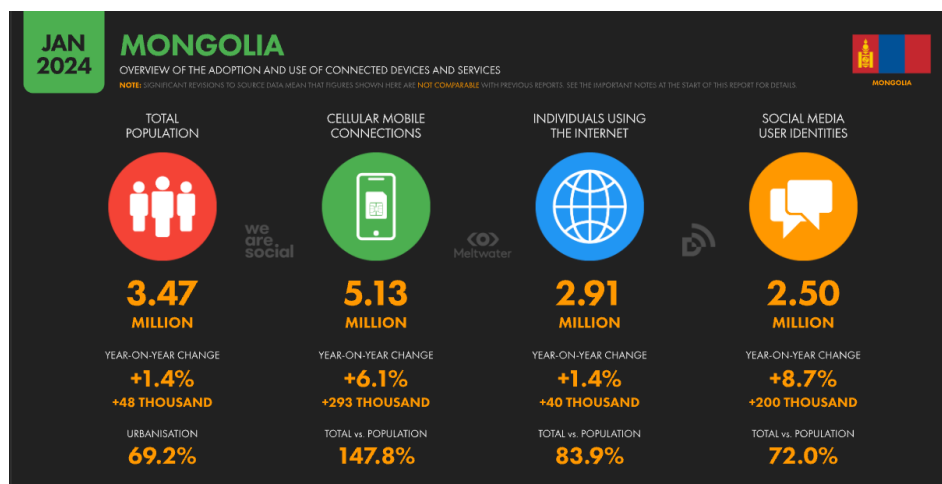
本日は、「モンゴルの電子政府の開発と政策」および「アーカイブズ開発の新時代と問題、課題および機会」という 2 つのテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。

1. モンゴルの電子政府の政策と開発

モンゴルにおける電子政府と AI 開発の現状をこのような短い時間ですべて説明することは不可能だが、いくつかの基本的な点を簡単にご紹介したい。

モンゴルの国土面積は 1,564,116 平方キロメートルで、全県・地区の 98.4% が光ケーブルに接続している。

2024 年初めの時点で、モンゴルのインターネット普及率は全人口の 83.9% となっている。そのうち 147.8% がアクティブな携帯電話ユーザーで、72.0% がソーシャルメディアユーザーである。



(国立公文書館による仮訳)

具体的には、Facebook ユーザーは全人口の 72.04%、Instagram ユーザーは全人口の 27.0%、LinkedIn ユーザーは全人口の 8.4%、X (Twitter) ユーザーは全人口の 3.7%である。

上記の統計から、モンゴルには電子政府の開発に適した条件があると言える。

モンゴル政府は、通信と情報技術を経済の主要セクターの 1 つとして宣言している。デジタル開発・イノベーション・通信省 などの政策文書において、あらゆるセクターの運営に情報技術と AI を集中的に導入することによってナレッジベースの電子国家の開発を実現するため、2022 年にデジタル開発・通信省が創設された。

政府は、政府によって提供される多くのサービスの階層を削減し、民間セクター、市民団体、国民と協力し、彼らを意思決定に参加させるよう努めている。さらに政府は、政府の生産性、効率、アクセシビリティ、透明性を高め、能力が高くインテリジェントな公共サービスを開発し、人権を尊重し腐敗のない政府を強化するため、過去のシステムを設計し直し、政府システムの電子インフラを開発している。

ここ数年は、教育、医療、文化、雇用など社会のあらゆるセクターの業務に集中的に AI と先端技術を導入している。

2024 年には、統合公共サービスシステムの「E-Mongolia」システムが拡張され、同システムにより提供されるサービスの種類が 3 倍に拡大するとともに、新たに音声サービスが導入された。例えば、道路通行料や、輸送、ドライバーの罰金に関する情報、洪水、水道、ガスのセンサー情報などを、このシステムを利用して迅速に国民に届けることができる。モンゴルの成人の 78%がこのシステムに登録し、オンラインでサービスを受けている。

最近、レコードキーピング業務にデジタル署名が導入され、政府が公文書を 100%電子的にやりとりし始めているほか、公共・民間セクターの ERP システムが統合され、共有文書交換システム (DocX) が開発されている。こうして政府機関は、国家秘密や公務上の秘密に関連するものを除き、公的なレターの送受信にシステムを利用し始めている。このようにシステムを導入することにより、政府の生産性は向上し、省庁の事務費が年間 12 億トゥグルグ節減され、国民に政府サービスを提供する速度が 2 倍になると考えている。

AI をめぐる法令・規則上の環境を整えるため、アーカイブズ及びレコード法を含む 100 以上の法律が改正されている。また、宇宙科学などの新しい法律プロジェクトを開発したり、モンゴルにおけるサイバーセキュリティの現状のレベルを量るための研究も始まっている。

(国立公文書館による仮訳)

2024 年に国連が発行した「電子政府開発指数」によると、モンゴルは 193 カ国中 46 位と、2022 年より 28 順位を上げた。また、電子行政参加指数は 37 位と、2022 年より 20 順位を上げている。

ご承知のように、政府は電子政府を開発し AI を導入するために民間セクターと連携しているが、先進国に比べるとそのレベルは低い。さらに、AI、ビッグデータ、情報セキュリティ政策に関する法及び法的枠組みや政府の適切な利用はまだ十分に形成されていない。

電子政府に関する政府の政策と活動は以下のとおりである。

- 内部コストを削減するために情報技術の進歩を利用する。
- 公共サービスを国民に提供するための方法と形式を、オープンで、透明かつ迅速な方法で改善する。
- 国民をパートナーと考え、国民の声や意見に耳を傾け、改善した公共サービスを官僚主義に陥ることなく、また遅滞なく国民や企業に提供する。
- 透明性が高く責任ある政府組織構造を開発する。
- 国民と経済の発展を推進する。
- 自然災害の防止など、多くの有意義な成果をもたらすことを目指す。

政府は、これらのプラス面はすべて直接または間接的に国連の持続可能な開発目標 2030 の達成に貢献すると考えている。

2. アーカイブズ開発の新時代と問題、課題および機会

ご承知のように、2006 年以降、モンゴルのアーカイブズおよびレコードキーピング業務への新しい情報技術と電子化の導入が全国で実施されているが、さまざまな困難や課題に直面している。国家公文書館の現状は次のとおりである。

- 情報技術とデジタル化に関する法律や規制が不十分である。
- 国家公文書館は人員が不十分で、人材不足である。
- アーカイブズ文書を電子形式に変換するための資金、人的資源、機器が十分に得られない。
- デジタル化の経験がほとんどない。

おそらく過去を見直すことが、AI により生成されたコンテンツ (AIGC - AI 生成コンテンツ) が急速に発展し、PICA や SORA などの新しい発見が登場し話題になっている現在において、正しい道筋を判断するために役立つだろう。

2006 年以降、アーカイブズおよびレコードキーピングに関する法令が更新され、電子的なレコードキーピングおよびアーカイブズの手法が確立し、ある程度人材が整い、一部の地方アーカイブズが専用施設を得て、人員が増加し、機器導入の機会が生まれ始めている。今年、公文書管理庁がレコードキーピング用の統合 GAS システム (<https://gas.e-document.gov.mn>) を立ち上げ、国の公文書管理用の CAMS システム (<https://cams.e-archives.gov.mn>)、国家公文書館システム用統合ポータル (<https://portal.archives.mn/>) が開発、導入された。

レコードキーピング用の GAS システムには、文書整理、文書の出入管理、決定の記録と監視、必要な報告と統計の生成といった業務だけでなく、レコードキーピングの過程で生成される文書の電子的な分類と分散化も含まれ、作成と保管の期間指定が可能になっている。GAS システムは、国のアーカイブズの内部運営を電子化するためのシステムで、アーカイブズにかかる国の電子データベースを作成、形成している。

このシステムを利用することにより、国家公文書館は資金を創出し、文書を検証し、保管、保護、利用し、統計データベースを完全な電子形式で作成、維持できる。

国家公文書館の統合ポータルシステムは、統合公共サービスシステムの E-Mongolia から受け取った問い合わせやサービス請求に応じて国家公文書館の統合データベースを検索し、電子署名で関連文書を確認して対応するために設計されたシステムである。

将来的には、音声サービスを提供し、サービスを受け、これらのシステムに新しい動画コンテンツをアップロードしようと考えている。

モンゴル国家公文書館は、その使命を次のように定義している。「国の伝統を尊重し、国民の正当な利益を尊重して、能力のある人材により電子的アーカイブズを創り出すことにより、モンゴルの持続可能な開発に貢献する」

技術の進歩と新しい発見は、私たちが目標を達成するためのさまざまな機会を生み出してきた。

以下に例を挙げる。

- アーキビストの仕事が容易になり、アーカイブズが提供するサービスがより手軽で迅速になる。
- アーカイブズの運営費が減少する。
- レコードキーピング業務の電子化により、情報の透明性が高まり、情報の損失、消失、証

抛不足、文書変更のリスクが軽減される。それにより、腐敗防止と腐敗との闘いにおけるレコードキープिंगの役割がますます重要になる。

- モンゴルを開発し国民の意識を高めるために、アーカイブズ文書をさまざまな方法で利用することが可能になりつつある。例えば、PICA と SORA を使うと、アーカイブズ文書の情報をもとに新しい動画コンテンツを作成したり、一般市民向けにより興味深く革新的なサービスを提供したりすることが可能である。もちろん、それは国民の求めに基づき手際よく行われる。さらに、原本に取って代わることはできないが、国民のニーズに合った歴史的事実に基づく情報を作成することができ、その過程で子ども達や若者に歴史の知識を提供できる。

AI を利用すれば、「スマートアーカイブズ」になることも可能だと考えられている。多くの新しい機会が生じているが、新しい発見や技術の進歩をそのままアーカイブズ業務に生かそうとすると、必ず新たな課題や困難に直面する。

急速に発展する技術や新しい発見には、アーキビストのより高いスキルが求められるようになる。法令のアップデートも必要になる。AI と技術の急速な広がりにより、偽情報の検知も難しくなり、文書、アーカイブズ文書、情報の法的能力の再検討が必要になるだろう。ここで最も重要な問題は、アーカイブズ情報のセキュリティ確保であり、公文書管理庁はこれに関して具体的な対策を講じている。

アーカイブズはモンゴル国民の歴史的な記憶と独立を守るだけでなく、重要なリソースや情報源も保存するため、情報社会と技術の高度な発展に適応し、業務における新たな発見を独創的に反映し、対応することが必要である。それには規制と資金調達が重要である。

ご清聴ありがとうございました。